

昭栄薬品

昭栄薬品の2016年度

決算は、売上高、営業利益、経常利益の3項目が2期連続で前の期に比べ増加となった。セグメント別に見ると、化学品事業は国内販売が堅調に推移したことで増収、日用品事業は利益率の高い商品の販売が好調に推移し増益となった。藤原佐一郎社長は、16年度決算を「ほぼ満点」と採点し「今

ていく。

化学品事業以外の今期の業績は、日用品事業が国内消費の足踏み感もあり微増収となることを予想するが、土木建設資材事業は東京五輪関連投資の本格化やリニア中央新幹線関連工事などを背景に出荷増となりそうだ。今期の売上高は日用品事業が9億3300万円、土木建設資材事業が11億6200万円を見込む。

期はさらなる収益力強化を目指す。利益率が上昇傾向にある化学品事業に注力するほか、各海外拠点における売上高も向上させたい」と意気込む。

化学品事業は国内において高級アルコールおよび界面活性剤の販売が順調に推移したほか、輸入化学品を中心に有機化学品の需要が増加したことにより16年度は好調だった。今期はほぼ横ばいの174億5800万円を予想している。界面活性剤に加えて、イソプロピルメチルフェニール(IPMP)、オレオケミカルの拡販も継続し

界面活性剤の販売が順調

今期は「前期に為替が動いたときに収益も大きく動いたので、為替変動への対応力を高める」方針で、「自分の時代よりも飲み込みが早い」と評価する営業部隊の活躍に期待がかかる。今期は国内各営業拠点で増員を見込む。また、中国の上海とタイのバンコクに構えるグループ子会社では今後数年間かけて足を固めていく。インドネシア、タイ、中国の各地域に展開し、海外グループ子会社の増収を達成する。